

《県営ほ場整備事業》

宮古島市下北地区

地区の概要

本地区は宮古島市(旧城辺町)の南部に位置し、地区北部から南部にかけて緩傾斜した地帯である。地区内はさとうきびを中心とした栽培が行われ、保水力に乏しい土壌で、かつ降雨が時期的に偏っているため、恒常的な干ばつ被害を受けていた。

本地区は、耕地の集団化と大型機械による農作業の効率化、また、農業生産と農家所得の向上を図ることを目的としてほ場整備事業(区画整理)を導入している。

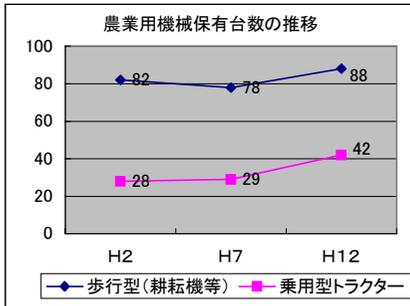


事業概要

- | | |
|---------|--|
| 1) 受益面積 | 68ha |
| 2) 主要工事 | 区画整理 |
| 3) 総事業費 | 1億2,500万円 |
| 4) 工期 | 昭和60～平成11年度 |
| 5) 関連事業 | 国営かんがい排水事業宮古地区
(平成12年度完了)
県営かんがい排水事業下北地区
(平成18年度完了) |

農業経営基盤の強化

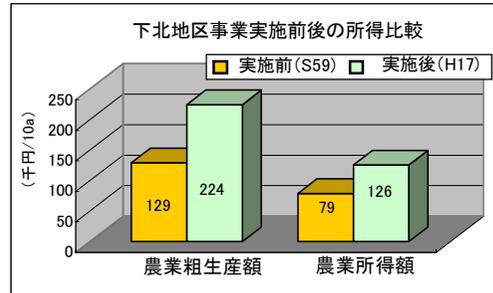
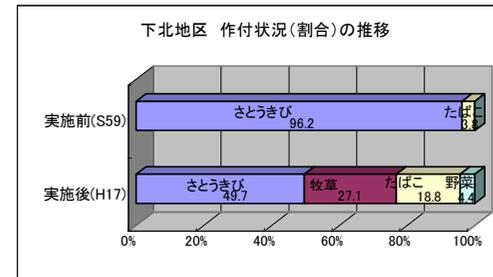
区画の整形、拡大により、農業用機械(歩行型、乗用型)の保有台数は増加傾向にあり、ほ場区画の拡大による機械化、大型化が進んでいる。機械導入による作業の効率化により、新規作物の栽培や生産性の向上が期待される。



事業実施の効果

事業の効果は下記のとおりである。

- 1) 事業実施前は、さとうきびの単一作付であったが、基盤整備後は、さとうきび、葉たばこ、牧草、野菜(カボチャ、ゴーヤー等)及び果樹(マンゴー等)をはじめとする高収益作物が導入され、施設栽培による集約的な農業経営も行われている。
- 2) 事業実施前に比べ事業後は、10aあたりの農業粗生産額が70%、農業所得額が50%向上した。
- 3) 事業導入を契機として認定農業者4名が認定され、葉たばこ農家を中心に担い手農家の育成が図られている。
- 4) 区画の整形や拡大により、大型機械の導入が図られ、特にさとうきびのハーベスターによる収穫面積が拡大し、作業の省力化が図られた。



これから

事業実施後における地区の課題と展望は下記のとおりである。

- 課題
- 1) 農作物の多様化により散水時期の違いによる隣接耕作者間の調整が必要となってきている。
 - 2) 沈砂池、浸透池の維持管理を行っているが、十分な管理ができず、これら施設の適正管理が課題となっている。
 - 3) 地区内には防風林が整備されているが、生育不良力所があり、保育、維持管理の充実をいかに図っていくかが課題になっている。

展望

畑地かんがい施設の整備がH18年度に完了したことにより、農作物の増収や高収益農作物の導入が予想され、今後ますます農業所得の向上が期待される。

